

2013年9月23日

第4回国連グローバル・コンパクト・リーダーズサミット会合 参加報告書

グローバル・コンパクト研究センター研究員 大西 祥世

1 概要

テーマ：よりよい世界の構築

主催：国連グローバル・コンパクト (UNGC) 事務所

日程：2013年9月19日(木)～20日(金)

場所：グランドハイアットホテル (アメリカ合衆国ニューヨーク市)

出席者：UNGC 事務所のゲオルグ・ケル所長、ウルスラ・ワインホーベン法務責任者等、パン・ギムン国連事務総長、ヤン・エリアソン国連副事務総長のほか、国連機関より、ヘレン・クラーク UNDP 総裁、イリナ・ボリコバ UNESCO 事務局長、ラクシュミ・プリ UN Women 事務次長、アミナ・ムハメド国連ポスト 2015 開発アジェンダ事務総長特別顧問、クリスティアーナ・フィゲレス気候変動枠組み条約事務局長等、民間企業の CEO および役員、GC ローカルネットワーク、各国政府、ムハマド・ユヌスグラミン銀行創設者等の国際 NGO、ジョン・ラギーハーバード大学教授等の研究機関から参加 (招待者に限定、約 1100 人)。

※ 日本から、有馬利男 UNGC ボードメンバーおよびグローバル・コンパクト・ジャパン・ネットワーク (GC-JN) 代表理事、名取俊英 GC-JN 事務局長、民間企業から国際航業の会長、南海通運の社長、良品計画の社長、第一三共製薬の副社長、リクシルの取締役、住友商事および武田薬品工業の CSR 担当部長等、米国現地法人から住友化学の CEO、日立製作所の副社長、三井物産の CEO 等、研究機関から大西洋世グローバル・コンパクト研究センター (GC 研究センター) 研究員が参加。

2 内容

(1) 成果

UNGC リーダーズ・サミット (GCLS) は、3年に1回開催される、国連事務総長やUNGC事務所、UNGC参加企業・団体のトップが対話を行い、今後3年間のUNGCの活動に関する勧告や戦略策定を行う最高レベルの会議である。

今回の会合において、2013年～2015年のテーマは「よりよい世界の構築 (Architecture for a Better World)」とされた。また、これまでの「子どもの権利」、「女性のエンパワメント」、「気候とエネルギー」、「水」、「腐敗防止」に加え、新たに、「教育」、「農業」、「平和」の3つのプラットフォームが創設された。さらに、「国連ポスト 2015 開発アジェンダに関する影響投資」のオンライン・ハブの創設が公表された。

(2) プログラム

20日の全体会および分科会では、会合に先立ち発表された報告書「国連ポスト 2015 開発アジェンダへの企業の参画の構築」報告書に基づき、持続可能な社会とよりよい世界を構築するための企業の役割や実際に行動する重要性が議論された。さらに、パン事務総長が議長を務めて、アフリカに関する特別セッションが開催された。

19日は、GC10原則をより具体的に実行するために企業、国連機関、各国政府、NGO、研究・教育機関等のステークホルダーが何をどのようにすべきか、例えば、人権および労働の分野では、企業と人権および女性のエンパワメント、子どもの権利について、環境の分野では、気候変動、水(water mandate)について、さらに腐敗防止、企業と平和をテーマに、30を超えるサイドイベントが開催された。

なお、「女性のエンパワメント原則 (WEPs)」は、全体会で扱う主要テーマの一つとして議論されるとともに、2つのサイドイベントと1つの分科会が開催された。

(3) 参加者

今回の会合は、UNGCに参加する145か国の8000社・4000団体に加え、WEPsに参加する40か国・600社にも参加が呼びかけられた。各社等からの参加者は原則として2人までに制限された。なお、GC研究センターは、UNGCおよびWEPsの参加団体ではないものの、これまでの研究活動が高く評価されてUNGCより特別に参加が許され、筆者が参加した。

(4) 東アジアからの参加者

中国、日本、韓国、モンゴルから、GCローカルネットワークおよび民間企業CEO等が参加した。中国は約70人の大代表団が参加するとともに、全体会のパネルディスカッションでシノペック(中国石化)社の会長が登壇したり、韓国は社会的企業への支援をテーマとした分科会ジャンプスタート・アクションでSKグループが報告したりするなど、存在感を発揮した。

(5) WEPsをテーマにした特別会合

(a) サイドイベント「気候変動と女性のエンパワメント」

UNGC、国連気候変動枠組条約事務局、UN Women、ロックフェラー財団の共催により、①気候変動の課題に対応する女性のリーダーシップ、ビジネスリーダーの役割、②持続可能なビジネスの実践を通じた挑戦について議論された。③インドネシアの自然派化粧品を用いたスパが地球環境にやさしいだけでなく女性の人身売買の防止に役立っていること、および、④トルコ企業の女性社員のエンパワメント研修について、事例をもとに報告された。

(b) サイドイベント「女性のエンパワメントと国連ポスト2015開発アジェンダ」

UNGC、UN Women、IFC、ITCの共催により、⑤WEPsの実施およびポスト2015開発アジェンダの協議に企業が果たす重要な役割について議論された。また、⑥女性のエンパワメントは健康、教育、食料の安全保障について女性と子どもに多様な利益を分配するが、企業も女性に投資をすることが正しく洗練されていることと認識していることが確認された。さらに、⑦取締役役に女性を登用することが企業の業績として効果がでているという研究機関の調査結果が示された。

加えて、女性のエンパワメントに関してはすでに多くの進歩がみられるが、企業を含むすべてのステークホルダーのより一層の行動を求め、⑧2030年までに公的および民間セクターの指導的立場への女性の参画が40%かそれ以上となるように、また、男女平等賃金、経営や所有権等に関する完全かつ平等なアクセスの保障、女性および女兒に対する暴力防止法の制定等の目標を設定したUNGC報告書の内容が紹介された。

さらに、日本におけるWEPs実施調査がWEPsの発展を支援し、貢献していること等、⑨各国のWEPs推進の取り組みが紹介された。

(c) 分科会ジャンプスタート・アクション「女性のエンパワメント」

WEPsの原則5であるサプライチェーンにおける女性のエンパワメントをテーマに議論が行われた。議論に先立ち、GCLSの開催に合わせて制作されたWEPs広報ビデオが上映された。これは世

界の WEPs 推進のリーダーのインタビューにより構成され、日本からはクロスカンパニーの石川康晴社長の女性の活躍促進が企業の業績につながるとの力強いメッセージが発信された（広報ビデオの URL : <http://www.youtube.com/watch?v=gU9mFbFHYxA&feature=youtu.be>）。

次いで、⑩バングラデシュにおけるマイクロクレジットによる女性の起業支援および⑪ITC による WEPs 署名企業と女性の小規模事業の経営者（ベンダーズ）とのマッチングの取り組みについて報告された。

（6）全体会

全体会は、20 日午前中に行われた。まず、パン・ギムン国連事務総長による開会挨拶において、持続可能な社会およびよりよい社会の構築にあたっての取り組みに必要な課題として、最初に「女性のエンパワメント」が挙げられ、⑫進歩、変化、これからドライブをかけて推進すべき課題と位置付けられた。さらに、公的および民間セクターの指導的立場、企業では取締役性に女性をより一層登用することを求めた。また、ハーバード大学のジョン・ラギー教授により、企業はよりよい社会を実現するための経済、ファイナンス、市民社会をつなぐ橋渡しができること、各国では保護主義やナショナリズム、さまざまな人権課題があるが、企業のリーダーは 2011 年の国連人権理事会で承認された「ビジネスと人権に関する指導原則」に基づいて、持続可能な社会を実現する責務があることが強調された。

続いて行われたパネルディスカッションでは、パネリストのトルコのサバンチ・グループのグルター・サバンチ会長より、⑬女性の職場、市場、地域への参画と活躍を促進することは、人口の半分を活用することによって持続可能性を実現すること、企業のリーダーの役割はそれに向けて情報を発信し、好事例を共有することであると指摘された。そのために企業が昇進のパイプラインを構築することおよび女性のエンジニアを増やすことの必要性が強調された。

パネルディスカッションの後半はワークショップ形式となった。「どのように男女を巻き込んで女性のエンパワメントを促進するか」等の 6 つのテーマがテーブルごとに割り当てられ、各々議論された。その内容は各参加者が GCLS 専用アプリにアップロードするよう推奨され、会場だけではなく世界中で共有された。

また、昼食時に 6 つのテーマごとに分科会「ジャンプスタート・アクション」が開催された。筆者は先述の WEPs に関する分科会に参加した。

20 日の午後は、企業の持続可能性および社会的責任に関して、6 つのテーマの分科会が行われた。筆者は「国連と企業のパートナーシップ」に参加したが、GC10 原則に基づく分野ごとに分かれて着席し、ワークショップ形式で進められた。女性のエンパワメントもその一つとされ、⑭UNFPA によるバングラデシュでの企業における女性のエンパワメントの事例を基に、参加者どうして議論を深めた。分科会のまとめとして、女性のエンパワメントについて企業はリップサービスではなく、制度化して実際に行動することが必要であると指摘された。

20 日の最後のプログラムは、再び全体会として開催された。MDGs 後の枠組みの実施や人権や平和に関して企業が具体的に行動すること、ESG 投資の役割が重要であり企業が GRI ガイドラインや統合報告により透明性を高めて情報開示を進めること、テクノロジーの進歩が企業の持続可能な社会の実現への貢献をもたらすこと等の重要性が確認された。

（7）参加者との意見交換

会場において、国連 WEPs 事務局および国連機関、各国の企業や NGO からの参加者と意見交換を行った。国連 WEPs 事務局からは、日本の WEPs 参加企業に関する調査や第三者評価等について、

日本企業の取り組みの状況が理解できて WEPs を推進するための大きなサポートとなっているとの高い評価を得た。また、GC 研究センターの活動を紹介するリーフレットやこれまでの研究レポートをまとめたブックレットをグラミン銀行創設者のユヌス教授等にお渡しし、たいへん好評であった。

(8) 日本政府の取り組みの紹介

日本政府による女性の活躍促進の取り組みや「見える化」の促進について紹介したところ、日本が最初の一步を踏み出したことはすばらしく、女性の活躍促進が進んでいない他の国々のロールモデルとなって欲しいとの高い期待感が示されるとともに、WEPs に盛り込まれている具体的なツールやヒントを活用して、企業における女性の活躍促進、特に取締役等への参画について、政府がより一層具体的に推進することへの強い期待が示された。

3 まとめ

- 今回の会合でも、持続可能な社会の実現のため、男女平等と女性のエンパワメントを推進しようという企業の熱気と熱意を直接に感じることができた。さまざまな国連機関や企業のトップから、女性のエンパワメントが持続可能な社会およびビジネスの実現に向けて必要であること、それは言葉だけではなく具体的に進めるための行動をとることが求められていること、そのために国連、企業、GC ローカルネットワーク、各国政府、NGO、研究機関等のステークホルダーの連携が不可欠であること、その際は男性を巻き込んで一緒に進めていくことが重要であることが指摘された。今回の GCLS では、前項の丸数字で示したように、女性のエンパワメントに関する内容が豊富に提供されていることから、このテーマに関する国連および UNGC をリードする企業トップ等の真剣さを感じることができた。今後、より一層これを多くの企業経営者が共有し、「よりよい世界の構築」に向けて、ビジネスと人権および女性のエンパワメントに関する UNGC と企業の具体的な取り組みのますます発展と加速が期待される。
- さまざまな場面で、サプライチェーン・マネジメントや、アプリ等のテクノロジーの発展とその活用が、特に貧困の撲滅や途上国における持続可能な社会およびよりよい世界の構築に向けたビジネスにとって大きな可能性があり、重要であることが指摘された。
- 「ビジネスと人権に関する指導原則」は、会合のさまざまな議論で言及された。すでに規範として共有され、これに基づく行動が企業には当然に求められるといった様子で、印象に残った。
- GC 研究センターによるこれまでの研究活動、WEPs 会合への積極的な参加、研究成果の情報発信が、UNGC 事務所および国連機関や国際 NGO 等の関係者に高く評価されていることが確認できた。なお、これにつき、UNGC ウェブサイト (<http://www.unglobalcompact.org/news/441-09-18-2013>) において「helping to develop and distribute a WEPs implementation survey in Japan」と紹介された。
- これまで GC 研究センターと交流のあった中国および韓国からの参加者や、WEPs 年次会合の参加者とも再会し、今後の一層の連携を確認した。
- サイドイベントにて、UN Women のプリ事務局長にご挨拶をしたところ、本年 6 月の日本訪問時における歓迎について、感謝の意が述べられた。
- 第 6 回 WEPs 年次会合が 2014 年 3 月 5 日～6 日に国連本部にて開催されることが公表された。国連 WEPs 事務局およびステークホルダーの主要なメンバーから、今後も情報交換しあうこと、次回の年次会合での再会を楽しみにしていることが表明された。

以上